

堺史料類纂總目次

堺市立図書館蔵

「堺史料類纂総目次」刊行にあたって

「堺史料類纂」は明治三十五年堺史の編纂を目的として堺史編纂委員会によつて調査収集された資料の稿本である。同委員会は同年一月中井作次氏を委員長として和田幾太郎、寺田兵次郎、広岡巴、日下元隆の諸氏を委員として組織され、村瀬秀実氏を編纂掛として資料の収集調査にあつたが、この編纂の事業は実現されず、翌年早々に解散した模様である。

この堺史料類纂は明治三十五年までの刊本、写本、新聞、雑誌などより堺に関係ある箇所を抜書、調査書、その他開書、碑銘、古記録よりなり、宗教部九冊、学芸部十冊、地理部六冊、風俗部一冊、政治部七冊、経済部二冊、工業部三冊、商業部三冊、漁業部一冊、市会議事録六冊、拾遺十冊の部門別に編纂されている。

なお、「抜萃書目」として掲げたものは、六十年後の今日この総目次の刊行に際して作成したものであるが、その殆んどが現存しないため、編著者、刊行年の不明のもの、あるいは刊本、写本、古文書等の区別のつき難いもの等、甚だ不完全なものとなつた。また、この総目次においては印書の関係上大部分を当用漢字に改めた。

昭和三十六年三月

堺市立図書館

拔萃書目

開口社如意宮縁起
 開口神社礼祭神考
 石津太社神社由来並二縁起
 石山旧録
 和泉国旧跡 延宝九年
 和泉名所図会 竹原春朝齋画 寛政七年
 伊勢や日向の物語
 一休諸国物語図会
 引接寺縁起
 謡と能 大和田建樹編 明治三二年
 雲萍雜誌 柳沢淇園著
 繪本石山軍記
 繪本難波戦記雜話
 延喜式神名帳
 延長寺相統之記録
 大阪朝日新聞 明治三四一三五年
 大阪毎日新聞界周報 明治三四一三五年
 大隅国風土記
 大寺縁起

翁天満宮略縁起
 翁物語
 お染久松野崎村ノ段 曲亭馬琴著
 御伽百物語 青木鷲水著 宝永三年
 堺府郷校記
 瘡神社修覆勸進録
 外交史稿 外務省編 明治一七年
 峨山逸話
 聴耳世間狙 上田秋成著
 奇書集覽
 北野縁起
 旧事記 近松卯平氏蔵
 校訂 京伝傑作集
 旭蓮社縁起
 琴曲独稽古 博物館編 明治三二年
 金魚養玩草 安達喜之著
 近古史談 大槻磐溪著 元治元年
 近郷名家人名録
 櫛笥寺縁起
 群賢押譜

群書類從 塙保巳一編
 毛吹草 松江重頼著 寛永一五年
 言海 大槻文彦編 明治二四年
 工芸志料 墨川真頼編 明治一〇年
 紅谷庵縁起
 紅谷庵梵利建立論
 向泉寺安産観音縁起
 向泉寺縁起
 蒿岬雜書
 皇朝歴代史
 光明院縁起
 国史案 木村正辞編 明治一五年
 稿本国史眼 帝国大学編年史編纂掛編
 明治二三年
 国史略 岩垣松苗編 明治一一年
 古事記
 国花万葉記卷五 和泉国
 骨董集 山東京伝著 文化一〇年
 古帳雜記写
 子安船玉十一面観世音略縁起記

子安船玉両願之観世音儀記縁起
 堺鑑 衣笠一閑 貞享元年
 堺史談 河盛彦三郎著 明治二七年
 堺史談会誌第三卷
 堺新聞第一一五号(明治二六年一〇月)
 左海人名録 九宝閑民編
 堺段通商事歴
 堺東北申唱町名独案内 弘化四年
 西郷家役石銀帳
 真田三代記
 酒造月報 明治二三一三五年
 勝地吐懐編 契仲著 元祿五年
 統日本記
 聖徳太子伝曆
 正法寺縁起
 聖武帝御剃髮伝記
 書画便覽
 諸国里人談
 糸乱紀 高石通齋著 享保五年
 享保二十年新檢地以来年々御取箇

新天誅脚

真書太閤記

地郷信解品

開山十万人略縁起

神宮寺安樂院縁起

菅原社縁記

住吉旧記

住吉神社神代記

住吉貞享雜記

住吉筆記

住吉名勝図会 寛政六年

世事百談 山崎美成著 天保一四年

撰津国東成大阪邑石山城略記 嘉永元年写

撰津名所図会住吉郡

撰陽群談 岡田溪志著 元祿一四年

撰陽落穂集 浜松歌国著 文化五年

泉州志 石橋直之著 元祿一三年

泉州信田白孤伝

泉州湊村天満大自在天神祠縁起

全界詳志 高志芝巖著 高志養浩補

蘇鉄縁起

大徳寺住持藉

大日本商業史 菅沼貞風著 明治二六年

大日本史

大日本史料 東京帝国大学編

大日本人名辞書 明治三三年

茅海新聞 明治三二年

乳守社由来起

茶考抄

茶の湯菜

長泉寺縁起

超善寺縁起

珍希記

手鑑(延宝・享保・延享・宝暦・寛政)

鉄砲記

天誅組略記

天保三十六年家絶句

伝承記 安達信五郎氏蔵

南海鉄道案内 明治?年

難波丸綱目 延享五年・享和元年

浪花軍記

南狩録

日隆大聖人一代略記

日本外史 頼山陽著

日本教育資料 文部省蔵版 明治二三年

日本釈名 貝原篤信著 元祿一三年

日本社会事彙 明治?年

日本書紀

日本書紀通証 谷川士清著 宝暦一二二年

日本事物起原 明治?年

日本戦史 参謀本部編 明治三〇年

日本愍国風土記

日本美術画家人名詳伝 樋口文山編

明治三四年

日本名家人名詳伝 明治?年

日本名勝地志 野崎左文編 明治二九年

日本輿地通志畿内部分 関祖衡 並河永共編

享保一九年

日本西教史 太政官職訳係訳 明治一一年

日本歴史辞典 明治三五年

諧逸話

博覧会彙報 明治三六年?

泉州堺長谷寺縁起

八幡宮本記

八幡大菩薩御遺跡

八幡大菩薩御縁起

阪堺鉄道経歴史

梅園考

秘事囊

悲田院縁起

船待神社縁起

仏心歴代師承伝

武用弁略

方違宮縁起

本受寺過去帳

本朝軍器考 新井君美著 享保七年

本朝人物叢伝

本朝神社考 林羅山著

本朝世事談綺 菊岡沾涼著 享保一九年

墨江紀略 黙雷室著 享保二年

湊村記録
 妓法寺縁起
 都絵馬鑑
 妙国寺歴代繪旨口宣案
 明治国民龜鑑 明治?年
 明治歴史 明治?年
 百舌鳥神社縁起書
 文珠四郎染附暖簾 化鉄斎刀子著 文政初
 有楽館記
 養浩界鑑
 来迎寺縁起
 浪螢集 天保八年?
 和歌名所追考
 和漢三才図会 寺島良安編
 和漢年契 寛政九年
 和訓六帖

堺史料類纂総目次

宗教 一 神社一 基督教

- 神社総論(統計 歴年起算表その他)
 神社各論
- 一、開口神社
 - 二、菅原神社、錦翁天神(梅翁寺)
 - 三、市戎社、本戎社
 - 四、方違神社
 - 五、向井神社(東原大明神)
 - 六、神明神社(新地)
 - 七、高須稻荷神社
 - 八、湊村天神社
 - 九、小 祠
1. 瘡神社(湊村)
 2. 乳守宮
 3. 久之森稻荷
 4. 如意明神社
 5. 琴平神社

宗教 二 神社二

- 十、廃社又は合併ニナリシモノ
1. 熊野王子社
 2. 神明神社(神明町)
 3. 稻荷神社(車之町)
 4. 神明宮(大小路)
- 基督教と堺(中世末に於ける)
 神宮奉斎会
- 神社各論
- 一、住吉大神宮
 - 二、石津神社
 - 三、大鳥神社
 - 四、高石神社 信田大明神ノ社
 - 五、船松神社(九艘明神)
 - 六、小社
1. 三宝村松屋新田氏神及社
 2. 全 山本新田氏神及社
 3. 全 南嶋新田氏神及社
 4. 蜂田神社

- 5. 陶荒田ノ社
- 6. 大依羅神社

宗教 三 寺院一

寺院総論(堺寺院歴年表 名称位置 統計)
寺院各論一

- 一、天台宗
 - 光沢寺 智禪寺 光明院 安樂院
- 二、真言宗
 - 觀月院 發光院 塩穴寺 長谷寺
 - 東光寺 向泉寺 千蔵院 長樂寺
- 三、融通念仏宗
 - 大福院 重樂院
- 四、時宗
 - 林昌寺 來迎寺
- 引接寺 金光寺

宗教 四 寺院二

寺院各論二
五、浄土宗

- 弁順寺 阿彌陀寺 宝泉寺 延命寺
- 長泉寺(南十萬) 大阿彌陀經寺(旭蓮社) 正法寺 長徳寺 生善寺
- 宝樹寺 玉円寺 安養寺 了覚寺
- 極楽寺 超善寺 西向寺 淨信寺
- 誓源寺 遍照寺 本願院 善長寺
- 超願寺 専修寺 大善寺 宗泉寺
- 福成寺(釋迦堂) 栄松寺 悲田院
- (北十萬) 宗見寺 宗宅寺 浄光寺
- 宝国寺 西覚寺

宗教 五 寺院三

- 寺院各論三
- 六、真宗
 - 教蓮寺 源光寺 宝光寺 慈光寺
 - 養寿寺 念勝寺 西然寺
 - 東本願寺別院 玉龍寺 西本寺別院
 - 覚応寺 萬福寺 浄得寺 浄因寺
 - 延長寺

萬代寺(毛須寺) 願成寺

宗教 六 寺院四

寺院各論四

- 七、禪宗
 - 南宗寺 本源院 天慶院 臨江庵
 - 禪樂寺 海会寺 大安寺 長慶寺
 - 少林寺 祥雲寺 禪通寺 紅谷庵
 - 法泉寺 妙光寺

宗教 八

寺院ニ関スル諸参巧書綴
神社ニ関スル諸参巧書綴
基督教(天主教)

宗教 九 宗教拾遺

- 開口神社 菅原神社 神明神社 方違神社
- 惠美須神社 事代主神社(本戎社) 琴平神社(海船琴平社) 神明社(新地神明社)
- 鉾神社 市杵島姫神祠 稻荷神社(高須・殿馬場) 惠美須神社 熊野神社 事代主神社
- 琴平神社 神明社 道守神祠 鉾神社
- 胃神社 船松神社 向井神社 船待神社
- 狭々神社 都岐島神社 日洲神社 田守神社
- 大鳥神社 百舌鳥神社 百舌鳥原神社神苑創設趣旨書
- 高石神社 石津太社神社 稻荷神社 荒神堂 首截地蔵 一路庵

宗教 七 寺院五

寺院各論五

- 八、日蓮宗
 - 妙光寺 本伝寺 妙慶寺 本成寺
 - 妙法寺 調御寺 顕本寺 法華寺
 - 興覚寺 妙満寺 櫛笥寺 妙国寺
 - 成就寺 経王寺 本受寺 妙円寺
 - 長源寺 本行寺
- 九、寺院什宝目録(常通寺 光接寺 一光庵)

十、堺市附近の寺院

- 禅海寺 家原寺 香林寺 華林寺

学 芸 一 文学・医術・美術工芸

- 文学
- 一、堺文学―紅丹花肖柏、宗椿―河盛彦三郎著
 - 二、奥野小山詩集抄録
 - 三、山侯手書記 小林信撰
 - 四、長柄橋木記 小林信撰
 - 五、土屋弘詩
 - 六、柳廬の詩
 - 七、円會、知家の和歌
 - 八、阿部温詩集抄録
 - 九、堺に關する書籍目録
 - 十、本朝書籍目録下
- 医 術
- 一、堺久住之医家
 - 二、半井胡丸
- 美術工芸
- 一、土佐派画家
 - 二、今井宗薫肖像贊
 - 三、堺人所蔵什宝目録

学 芸 二 教育

- 教育各論一
- 一、堺府郡校記
 - 二、医学校
 - 三、堺中学校沿革誌（自明治二十八年二月至全三十四年三月）
 - 四、堺高等女学校沿革誌（自明治七年五月至全三十五年四月）
 - 五、女紅場
 - 六、堺高等小学校沿革誌（自明治十一年六月至全三十四年末）
 - 七、上等小学校
 - 八、堺女子高等小学校沿革誌（自明治三十一年至明治三十四年）
 - 九、泉二番小学校目録（自明治六年六月至八年七月）
 - 十、南旅籠尋常小学校沿革誌（自明治五年四月至全三十五年）
 - 十一、宿院尋常小学校沿革誌（自明治五年

四、名器目録

- 五、秀吉北野の茗蒸に堺の茶家名器を出陳せしこと
- 六、信長松井友閑に命じ堺有名の茶器を献覽せしむ
- 七、天倫和尚筆（中村氏祖先に關する記事）
- 八、蒔絵（東山時代）
- 茶人ニ關スル参巧書綴
- 茶道、茶考抄、茶会、教寄屋、茶具唐名ノ事、茶器
- 文芸ニ關スル参巧書綴
- 巨勢金岡、和泉式部、津守国基、狩野正信
- 石山旧録、山岡宗無、宗椿、茶人ノ貫、北野縁起九卷、伊勢立阿彌、画師心蓮、世事談拔書（画伝） 絵所土佐系譜、小山朝山 伊藤仁齋、小西来山
- 堺史談会誌才三卷拔萃
- 三ツ村（謡曲）
- 學術ニ關スル参巧書綴
- 衛生、印刷、天文、算数、度量衡

四月至全三十四年十二月

- 十二、市尋常小学校沿革誌（自明治六年一月至全三十五年七月）

学 芸 三 教育二

- 教育各論二
- 十三、熊野尋常小学校沿革誌（自明治五年四月至全三十五年三月）

学 芸 四 教育三

- 教育各論三
- 十四、堺錦尋常小学校沿革誌（自明治五年四月至全三十五年十月）

学 芸 五 教育四

- 教育各論四
- 十五、錦小学校分校日誌（自明治十三年一月至全三十五年一月）
 - 十六、錦西尋常小学校日誌拔萃及沿革誌

(自明治三十二年 至 三十五年三月)
十七、英彰尋常小学校沿革誌(明治三十四年十二月至全三十五年九月)
十八、私立堺幼稚園沿革誌並市立堺才一幼稚園誌(自明治三十二年一月至全三十五年十月)

学芸 六 人物(上)

人物総説

人物各説(上)

一、政治家

松井友閑 三好存保 石田重成 池永

某 主斗某 小河一敏 藤井千尋 吉

田豊文 小向寛雄

二、武人

松山新助 小西行長 木戸作右衛門

三、学者文人画家書家

里村玄陳 上条柳廬 上条柳居 高志

養浩 艸加 穉相泉 等 土佐久翌

津川右衛門尉 趙陶齋 正善 栖鳳

尾道三 惠藤源左衛門

九、技芸家(茶人 華道家 碁客)

紹鷗 道陳 利休 宗久 宗薫 宗吸

油屋宗味 油屋紹佐 西屋宗佐 油屋

常祐 小西彌三 小西道純 石津屋宗

嬰 伊勢屋宗滴 菅田屋宗宅 文阿彌

意雲 温故 利玄

十、奇人狹客遊女

鼠楼栗新左衛門 一寸徳兵衛 遊女地

獄

学芸 八 人物(下)

十一、堺ニ関係アル人物並堺附近出身人物

イ、武人政治家

山名氏清 細川氏 大内氏 三好氏

ロ、文入学者画家

牡丹花肖柏 榊原豊洲 満生 兎長谷

川菅緒 松木淡々 渡辺重春 関茂園

土佐光則 土佐光吉 土佐光起

林閣苑

和田益斎 土佐光純

四、僧侶

澄円 一路 岐翁 瑞溪 仙岳 一凍

宝叔 松岳 雲英 瑤林 江月 安室

江雪 翠岩 虎岩 沆南江 日闍泉

南

学芸 七 人物(中)

人物各説(中)

五、医家

半井氏先祖書 半井道三 半井瑞策

半井卜養 半井宗珠 松井宗閔

六、商売

穴喰屋某 小西如清 西るい才家系

今井道与

七、社会事業家篤行者

吉川俵右衛門 神辺大道心 北田豊三

郎 日備長次郎

八、音楽家

高三隆達 喜多七太夫 車屋道悦 官

ハ、僧侶

行基 雅真 明範 玄海 快尊 一休

大林 春岳 伝心 天倫 鶴州 沢庵

大心 峨山

学芸 九 伝記

日本武尊 神宮皇后 武内宿禰 履中天皇

磐之媛 野見宿禰 王仁 百濟酒若

紀貫之 和氣清麻呂 藤原為家 藤原家隆

安部晴明 源行家 源頭家 新田義貞

足利氏 畠山基国 富山満家 十河一存

十河存安 伊丹雅興 斎藤龍興 織田信澄

織田信長 松永久秀 松永永種 今井道興

長曾我部元親 九鬼嘉隆 後藤基次

豊臣秀吉 淀君 豊臣秀頼 小出氏

島津義弘 徳川秀忠 徳川家光 石田三成

呂宋助左衛門 徳川家康 細川忠興夫妻

大野治長 大野治房 織田有楽 天野屋

利兵衛 大塩平八郎 「養浩界鑑」

河端氏系譜

学芸 十 学芸拾遺 伝記

和泉式部古跡 茜屋宗佐 油屋常祐 油屋
紹佐 油屋宗味 石津屋宗嬰 伊勢屋宗滴
一休 一節道清 今井氏家紀 今井宗久
今井宗薫 加賀四郎 河野進齋 休翁
岐翁 道陳 茶人空海 吉左衛門 行基
沅南江 小西道純 小山朝三 菅田屋宗宅
相泉 雜賀浄甫 正善 春慶 心蓮 西順
瑞溪 栖鳳 紹鷗 肖柏 関茂園 仙岳
宝叔 一凍 雲英 瑤林 松岳 江月
安室 虎岩 天倫 翠岩 江雪宗立 利休
宗椿 針 鍛冶宗鉄 玉屋吉兵衛 趙陶斎
津川右衛門尉 滴水禅師 等誓 土佐光起
土佐光純 土佐光則 土佐光吉 甫竹
三宅寄齋 和田益齋 奥野小山 渡辺重春
小田清雄
三味線 茶屋株 遊女町 卯之葉女 花摘
の唱歌 芝居

総説

和泉国大鳥郡の部
山川 池沼 井戸 村里 関梁 文苑
界地理考
界に関する統計
芝居 出火 船年寄 戎嶋湊内疎通 江戸
献上物等の事
地名境域形勢
地名の起因
界浦の名称
界泉州摂州西属の説
界境域
延享及享和の界境域
地位及形勢
界の地理
界市の位置形勢
北荘 南荘
泉北泉南両郡郷村名
市街
徳川家康境の市街を再造す

地理 一

錦綾の町名起因

地位形勢の沿革

西郷家役石銀帳(寛政十一年十月)

堺南北東西申唱町名独道案内(弘化四年

五月)

堺町名

市中間敷之事

三ヶ村農人町表側間敷

河川橋梁附井戸

河川

大和川 新堀川 大和川開鑿並ニ架橋

大和川(延享五) 大和川 新大和川

大和橋 新川普請 大和川の事 東堀川

の事 堀川の事並ニ御影山の事 新堀川

(延享五) 御影山築造

橋梁

橋梁架設の年代位置等 千歳橋架換に關

する古記録 大和橋 少林寺橋 栄・旭

勇橋架設命名

井戸

一 堺区市街の井戸試験報告 堺市邑の井水

堺市街井水改良考按 堺の名井

口碑集

堺海船港附近神宿材之沿革

小桜町名称の起源

錦之町の銀杏大木の事

桜之町名称の起源

堺の豪商大阪へ引越之事

木村長門守の末孫烟硝屋となる

七堂の七不思議

古文書の所在 開合書

浅香山 葦原浜 行在所附神宮奉齋会

占ノ辻 朴津 戎島 大浜公園地 伽羅橋

七堂浜 塩風呂 宿院 新地 高須

玉横野 乳岡山 戸立野 殿馬場 虎子石

長塚山 長山 船松(九艘小路 九本松)

半井家ノ隠宅 飯匙堀 目口筋 三國橋

湊村 大和川鑿由来 山ノ口筋

地理 二 港湾及波止

港灣

界大浜の変遷

界新水門

港灣修築並ニ石堤工事に関する記録

界港の濫觴(吉川倭右衛門之事蹟)

吉川倭右衛門小伝

吉川倭右衛門港灣浚渫關係書類

湊普請願一件

江戸表江御親之節相改書上候願書

最初願立より手続書上

御親之節御召ニ而御答書

貸付地図坪数見込書上

証人に御尋書之控 (以上寛政元年)

羽倉権九郎様御見分御改之節証人共御召

御尋請書

湊堀諸八用積書上帳 (以上寛政二年)

朱引通築立地面追々出来可有之地子銀年

限を以申上候様江戸表より被仰渡候ニ付

願書

願御免之節御請書 (以上寛政三年)

南新川書上

借用銀ニ付願書 (以上寛政四年)

御拝借請切地所御引渡願並地面ニ付取計

一件願書

湊普請留 (以上寛政六年)

褒美請書(寛政七年)

界港灣埋立工事費補助

所々石垣間敷

港灣地図

波止

波止増築並燈台建築之始末

界波止増築始末

石堤波戸(延享五年・享和元年)

地理 三

新地

新地の状況

新地再興のこと

嘉永三年新地拜借地面再改野帳

新地の交遷

郵便電信電話鉄道人力車旅館里程

界郵便電信局業務沿革誌

界電話交換支局(電話の状況)

界市の電話近況

阪界鉄道沿革

界停車場

大和川停車場

湊停車場

南海鉄道界駅より各名所への人力車賃

旅館

界大小路より各地への里程

界より紀州への道程その他

岸和田より所々へ舟路

大小路新町口より諸道程

人口戸数及牛馬船数

界人口戸数 界町数及人口

界家数、人数(元祿六年)

牛馬船数 先規並馬数

界惣船数(延享五年)

物産

泉州名品一休和尚の鳥扇

界の胡瓜 蛤(細川十州の詩)

金魚の将来 金魚の変遷

郡山金魚の話

災異

界の地震

嘉永七年大地震の記念碑文

天文・文化兩度の港水

応安以来界の火災 応永の兵火

文政十年の火災

慶応四年界錦之町焼の大略

明治の火災(新地焼ケ、具情焼ケ、御坊焼)

天保三年の干魃

界大阪ニ赤砂及白毛降ル

界ニ関スル天文年間の記事抄

地理 四

名所旧蹟

界名所旧蹟(明治七年調)甲ノ明神附馬

堂 荒神堂 戎嶋観音堂 善法寺並龍神堂
 界王子ノ社 高野堂 首截地藏 宿院
 名越浜 開口ノ亭 九艘小路附九本松(舳
 の松) 塩風呂 日口町 三國街(三國山
 上条柳廬詩) 占の辻 界浦(夫木集)
 大浜公園 界魚市場の濠(魚市 旭館
 北大浜 慮原浜 七堂繼嶋 躍念仏 七度
 (七道) 浜 高須 高須の遊廓の迹 戎嶋
 戎嶋水茶屋 戎社 お鯛茶屋 戎嶋紀州屋
 敷 浅香山明細帳 浅香山由緒書 浅香山
 諸役免許之写 浅香山証文(狐塚に稻荷堂
 建築之事) 浅香山高反別 浅香丘 稻荷祠
 浅香浦 戸立野 玉横野 横野郷(玉横野
 郷) 朴津郷 朴津里 朴津(朴津寺の旧
 蹟) 遠里小野(極楽寺) 海船の館(梅
 翁寺) 山の口筋 半井卜庵の狂句 殿馬
 場 諸官衛の位置 並松町 大内義弘の城
 趾 高林寺の位置 虎子石

飯匙堀 凡人中家
 墓所

四所墓 四所之三昧
 風間六右衛門尉之墓石(在柳之町西二丁
 月蔵寺)
 在月蔵寺の石碑(大野道見)
 古塚(紹鷗、牡丹花、道陳、蓮如、三好因
 州、大内義弘、風間六左衛門墓の所在)
 高志養浩の墓(在南半町 宗善寺)

地理 五 地理拾遺 和泉国一

総説
 建置沿革 租税
 祥異 風俗
 和泉監設置 穉城
 郷名 氏族
 形勝 国名の起因
 藩封
 大鳥郡(郡名の起因、氏族、郡出身の人物)

等)

和泉国の風土、建置沿革
 和泉国号の始り
 和泉国の起源並ニ茅渟海、同建置沿革
 和泉国の位置、地勢、沿革、物産、界市
 (位置、名勝、社寺)
 大鳥郡(位置、郡名の起源、地勢、陵墓
 社寺、名勝)
 泉郡(全) 蜂田の郷
 家原村、市村、踞尾村、下田村
 深井の荘 毛須の荘
 土師村 百濟村
 直尻村 日置村 石津
 茅渟
 珍努海 茅
 茅山 茅 之来由
 茅官遺 茅 浦
 界郷
 政、治
 和泉監 界の名称の起因

和泉監百性の贖給(天平)

和泉山背等飢饉(天平神護)
 和泉国飢 (延暦)
 下破内親王を淡路より和泉に移す(延暦)
 和泉国を降らす(延暦)
 和泉国諸寺を檢校す(弘仁)
 河内和泉の長、次官(承知)
 撰津国江南四郡を和泉国に隸す(天長)
 和泉江南四郡を撰津国に還附す(全)
 源定徳遊獵、飢疫、四度使処分 (貞観)
 飢饉賑給、班田檢校調地子の免除(元慶)
 和泉国楊梅子を貢進す
 和泉国正税公(高) 和泉国の調
 宮内省庁屋の修築(長元)
 和泉国実を出す(天養)
 和泉国勘文
 兼実(玉泉国を給ふ(文治)
 頼朝佐原十郎左衛門尉義連を紀伊和泉両国
 の守護に補す(文治)
 後鳥羽上皇界の王子に行幸す(建仁)